

## 旧有備館及び庭園の復興

岩出山ボランティアガイドの会 中森 成信さん

あらためて感じた  
**各地からの有備館への愛**

三月十一日の午前中、ボランティアガイドとして有備館の案内を終え、自宅でくつろいでいたときに地震が起きました。地震直後に被害の確認をしに行つたときには、変わり果てた姿になつっていました。「まさかここまで崩れるとは：」と、ただただ驚くばかりでした。

東日本大震災後は、ボランティアガイドの要請はほとんどなくなつてしまつたので、それなら有備館の復旧支援活動をしようと考えました。五月三日からの有備館の一部公開にあわせ、有備館に応援メッセージボックスを設置したり、募金活

五月三日以降、市内外から、たくさんのお客さんが来館しました。観光に来て、地震により有備館が崩れたことを初めて知つた人もいたようです。何より私たちを勇気づけてくれたのは「早く元の姿に戻るといですね」「がんばって」という励ましの言葉です。姉妹都市の北海道・当別町の皆さんからも、応援の言葉が届いたり、義援金などで多くの支援をいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

今回、有備館が皆さんから愛されているのをあらためて感じました。岩出山地域の象徴を復活させるため、復旧支援活動を続けていきます。



上 / 岩出山ボランティアガイドの会の中森成信さん  
下 / ゴールデンウィークには多くの人が来館しました

 鹿島台地域で災害ボランティアとして活躍

**若者の力を活用するため  
もつと情報を発信するべき**

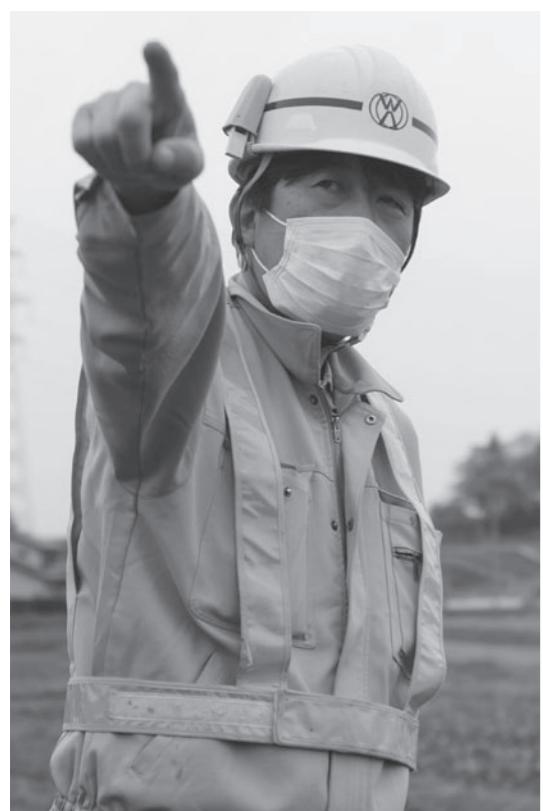
避難所では、避難者の話し相手にもなり、余震が続く中、少しでも気持ちを落ち着かせることができればという気持ちで接していました。

お年寄りや一人暮らしの人には、家の片付けを行うにしても、一人では限界があるので、体力のある若い人たちが積極的にボランティア活動に参加するべきだと思いました。また、ボランティアセンターの存在が、あまり知られていないことも活動している中で気づきました。若者の力を利用するため、どこに行けばボランティアの情報を得られるのかを、受け入れる側がもっと発信することが必要だと感じました。



3週間、地域のために力を尽くした鹿野祐樹さん

 復旧現場からの声 建設会社に勤務する 伊藤 博明さん



# おおさきさいがいエフエム

市内各地域で多くの被害があつたのに、伝える手段がない。そんな危機的状況で、いち早く市民の皆さんに情報を伝えるため、三月十五日に東北総合通信局から臨時災害放送局の免許を取得し、おおさきさいがいエフエムが始まりました。

市内の被害状況、ライフラインの状況を把握するため、自転車や自分の足で、市役所、消防署、学校、市街地を回り懸命に情報を集め、必要とされている情報を探しました。

テレビや新聞からは、被害の大きい沿岸部などの情報が伝えられるものの、大崎市のような内陸部の状況がわからなかつた

「それで、そういう意味では、少しは皆さんの役に立てたかな、と思っています。」  
リスナーの反響は大きく「貴重な情報をありがとうございました」「元気をもらった」などの声が寄せられ、皆さんから逆に支えられ、励まされた面もあります。大崎市出身で現在は海外に住んでいる人から、友達を心配して連絡がきたこともありました。

今回の震災を通して、必要な情報を正確に素早く伝えることがいかに大切かを、あらためて感じました。

おおさきさいがいエフエムは五月で終了しましたが、地域に密着した情報を提供できる、コミュニケーションエフエムの開局を目指して準備を進めています。



上 / おおさきさいがいエフエムの福地孝さん  
下 / スタジオから地域の情報を伝えます